




特集シリーズ 
小浜の今を追う

こどもの声

私たちの声、本当に届いていますか
子どもの声は、騒音？ 未来への道しるべ？

子どもの声をめぐる社会の動き

平成9年
川崎市で公園滑り台での子どもの声に苦情が寄せられ、撤去・移転。

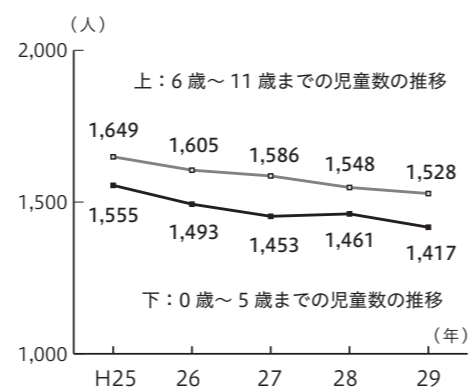
平成19年
福井市で公園でのボール遊びの音に苦情が寄せられ、市が対策。

平成27年
茅ヶ崎市で騒音問題などの理由で保育施設の開園が延期。各地でも延期・中止のケースが相次ぐ。

平成29年
東京都が環境確保条例を改正(子どもの声を数値規制対象から除外)。

大阪府が手引書「子ども施設と地域との共生に向けて」を発行。

【小浜の子どもの数の推移】



※年齢基準日は各年の4月1日(市人口集計表より)

■問い合わせ 市民協働課 ☎64・6009

また、初となる「こどもアンケート」と「市民アンケート」を実施。小浜で暮らす子どもの声を集めるとともに、子どもたちに寄り添い、共に進もうとする地域社会の姿を追いました。

今回、広報では、これまで騒音として扱われることのなかった「子どもの声」に、なぜ苦情が寄せられるようになったのか、騒音問題を生み出すメカニズムに迫りました。

また、初となる「こどもアンケート」と「市民アンケート」を実施。小浜で暮らす子どもの声を集めるとともに、子どもたちに寄り添い、共に進もうとする地域社会の姿を追いました。

今年、広報では、これまで騒音として扱われることのなかった「子どもの声」に、なぜ苦情が寄せられるようになったのか、騒音問題を生み出すメカニズムに迫りました。

少子高齢化が進み、核家族化や隣近所の関係の希薄化など社会が変容する現代。地域の中で、子どもの声はどこへ向かうのでしょうか。

今回、広報では、これまで騒音として扱われることのなかった「子どもの声」に、なぜ苦情が寄せられるようになったのか、騒音問題を生み出すメカニズムに迫りました。

少子高齢化が進み、核家族化や隣近所の関係の希薄化など社会が変容する現代。地域の中で、子どもの声はどこへ向かうのでしょうか。

大人から子どもへの「要求」が顕在化する一方で、私たち大人は、子どもたちにちゃんと向き合い、その声に耳を傾けているのでしょうか。

近年、全国の都市部を中心に、保育園などでの騒音問題が話題になっていきます。小浜でも、ある公共施設に、子どもの声がうるさいので、静かにさせる対策を講じてほしいという意見が寄せられました。

近

近年、全国の都市部を中心に、保育園などでの騒音問題が話題になっていきます。小浜でも、ある公共施設に、子どもの声がうるさいので、静かにさせる対策を講じてほしいという意見が寄せられました。

子どもの声はうるさいのか？

現代社会の騒音問題に迫る



インタビュー

騒音研究の第一人者に聞く

子どもの声を許さない社会より、節度と寛容を持ち合わせたお互い様の社会を



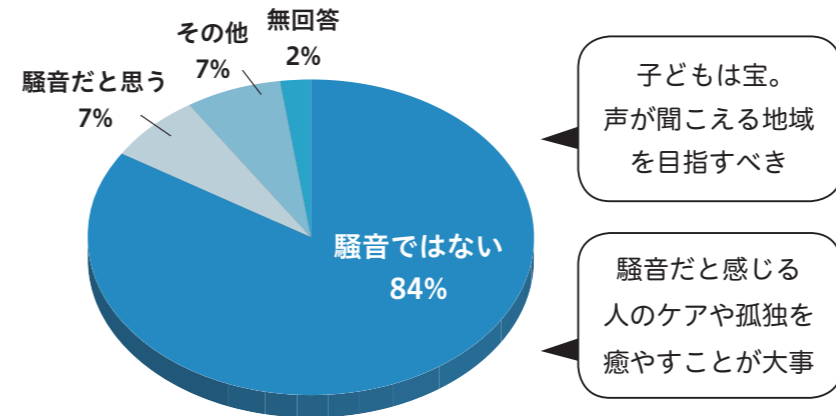
騒音問題総合研究所 代表
橋本 典久 さん (66歳・八戸市)

福井市出身。八戸工業大学名誉教授。専門は音環境工学、特に騒音トラブル。「苦情社会の騒音トラブル学」(日本建築学会著作賞)など著書・論文多数。

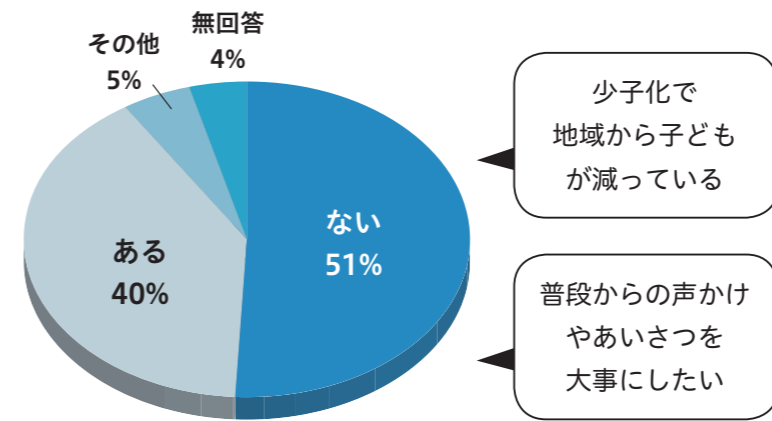
人のつながりやコミュニティが希薄になったと言われる現代において、平成9年頃を境に、隣近所の騒音トラブルが増えてきています。その中でも、「子どもの声」は社会的にインパクトがあるので、近年特に注目を集めています。現代の騒音問題を表すとき、私は「煩音」という言葉を用いています。公害などに代表される「騒音」は、防音対策をすればある程度は防げます。しかし、近隣騒音や子どもの声などを指す「煩音」は、音が大きくなっても、心理状態や人間関係で煩わしく感じるの

で、違う対策が必要になります。かつて地域のにぎやかさや元気の象徴であった子どもの声に苦情が寄せられるという現象は、音を受け取る人間側が変化してきたことです。私たちの暮らす社会自体が「騒音を許さない社会」「人を許さない社会」になっているように感じます。その先にあるのは、苦情がふくれあがる社会です。本来、目指すべきは、音を出す側の「節度」と、音を聞かされる側の「寛容」を持ち合わせた「お互い様の社会」ではないでしょうか。保育園と地域に住む人が、お互いにプラスを感じられる「WinWinの関係」を築くことも望まれます。

問 子どもの声を「騒音」だと感じたことはありますか



問 住んでいる地域の中で子どもとの交流はありますか

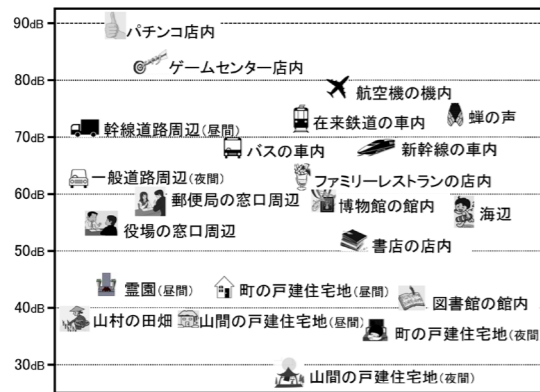


7月に実施した市民アンケートで、子どもの声に関する意識調査を行いました。その結果、8割以上の人が、子どもの声を「騒音ではない」と答えました。その一方で、「生活環境や体調によって騒音だと感じることもあるのでは」と理解を示す声や、「場所によっては保護者や周囲の人の注意も必要」と子どもに対する大人の関わり方への指摘もみられました。

地域での子どもとの交流については、「ない」が「ある」を上回りました。また、以前と比べて「交流が減った」と感じている人が52%と、「増えた」と感じる人の9%を大きく上回る結果となりました。※意識調査は、毎年行っている広報についての市民アンケート内で実施。無作為に抽出した20歳以上の市民1000人が対象で、回答者数は409人

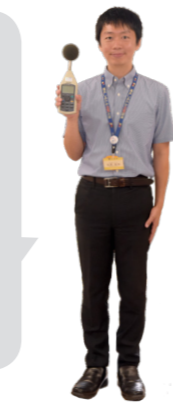


騒音問題総合研究所では、専門家による子どもの声の音量を測定した結果をホームページで公開しています。



騒音の目安 地方都市・山村部用 (全国環境協議会)

今回の測定では左図の「町の戸建住宅地」から「役場の窓口周辺」間の音量という結果になりました



広報担当 松原 まつばら

平均	最大	最小	時間
45.1dB	53dB	41dB	16時00分 16時10分 お迎え
47.4dB	62dB	43dB	12時00分 12時10分 給食
平均 55.4dB	最大 71dB	最小 46dB	11時10分 11時30分 4~5歳外遊び
平均 50.8dB	最大 68dB	最小 42dB	10時20分 10時40分 1~3歳外遊び
平均 44.2dB	最大 48dB	最小 40dB	9時50分 10時10分 ホール遊び
平均 45.6dB	最大 60dB	最小 40dB	9時30分 9時40分 室内遊び
平均 44.8dB	最大 53dB	最小 39dB	8時30分 8時40分 登園

※園庭内に騒音計を設置して5秒ごとの音量を測定。単位のdBはデシベル

実 実際のところ子どもの声って、どれぐらいの大きさなんだろう？ 広報担当職員が市内保育園で時間ごとの音量を調べてみました。 ※専門的な調査結果ではありません。あくまで広報紙用の参考値です

広報
なぜなに
レポート
in 保育園

「子どもの声」
大きい？小さい？

11子どもアンケートの結果を発表！

今 回の特集にあたり、市内の保育園・幼稚園・こども園に通う3歳〜5歳児746人とその家族を対象に、初めての試みとなる「子どもアンケート」を実施しました（回答数497人）。

内容は、「大人になったらなりたいもの」、「家族がなってほしいもの」、「大人の好きな場所」、「家族以外で好きな人」の4項目です。小浜で暮らす子どもたちが、どんな夢を描き、どの場所を愛し、どんな人と交流しながら、成長しているのか。そんな子どもたちを見守り、支える地域の大人たちの姿と合わせて取材しました

職業、「小浜の好きな場所」、「家族以外で好きな人」の4項目です。

小浜で暮らす子どもたちが、どんな夢を描き、どの場所を愛し、どんな人と交流しながら、成長しているのか。そんな子どもたちを見守り、支える地域の大人たちの姿と合わせて取材しました

大人になったら なりたいもの

1位	ヒーロー ヒロイン	127票
2位	食べもの屋さん	87票
3位	スポーツ選手	29票
4位	警察官	28票
5位	運転手	18票

1位は仮面ライダーやプリキュアなどの「ヒーロー・ヒロイン」。正義や人のために困難に立ち向かう姿に、男女両方から票を集めました。2位には食のまち・小浜らしく「食べもの屋さん」がランクイン。特に「パティシエ・ケーキ屋さん」が人気という結果に。

家族がなって ほしい職業

1位	子どもが なりたいもの	176票
2位	公務員	36票
3位	看護師	34票

家族からは、子ども自身がなってほしいものを応援するという声が多くトップに。2位は「公務員」と、子どもの安定した就業を願う親心がみとれました。

小浜を通る新幹線を運転したい



さわだ いう くん
(国富保育園)

お魚が好きだから漁師さんになりたい



たなか ゆづき ちゃん
(聖ルカ幼稚園)

スーパーマンになってみんなを助けたい



はやし ゆら くん
(口名田保育園)

キラリ★と輝く

あんな夢
こんな夢
アンケートより

一番速く走る人

海賊

地球を見る人

鬼

ザリガニを捕まえられるようになりたい

おひさま

サンタクロース

魚釣り名人

市民アンケートと子どもアンケートは市公式ホームページで全結果を公開しています。



写真左/
はまの なる ちゃん (浜っ子こども園)

写真右/
パティシエール
しみず あやこ さん (40歳・本保)

あきらめなければ夢は叶う

ケーキ屋さんになることを夢みる保育園児の濱野暖ちゃん。「ママにお菓子の作り方を教えてもらおうちに、ケーキ屋さんになりました。くなった」ときっかけを話します。暖ちゃんが誕生日ケーキを買った市内洋菓子店の清水さんも、子どもころの夢を叶えた一人です。「小学5年生のときに通った料理教室で、お菓子づくりの楽しさに目覚めました」と振り返ります。短大卒業後、一時は別の仕事に就きますが、「夢を叶える道を選びたい」と洋菓子店の門を叩きます。

2年間働きながら、勉強をして、製菓衛生師の試験に合格。菓子づくりに打ち込み、平成25年から店長を任せられるようになりました。「お客様の特別な瞬間をケーキでお手伝いできることがやりがい」と言う清水さん。「なりたいものが見つかるのが幸せなこと。あきらめなければ夢は叶います」最後に清水さんは、「ケーキ屋さんになってね」とエールを送り、暖ちゃんも「すごいケーキを作って、いろんな人に食べてもらいたい。頑張る」と笑顔を見せました。

子どもの声

描いた夢のキャッチボール



写真右/
ふじた かりゅう くん (国富保育園)

写真左/
美容師
ふじた かずき さん (48歳・羽賀)

マイパパ、マイヒーロー

市内で美容室を営む藤田さん。次男の暉琉くんの夢は、お父さんと同じ美容師になることです。物心が付いたときから兄弟で店に入りし、「パパがチョコチョコキしているのを見て、自分でもやりたいくなった」と教えてくれました。藤田さんは、「今回の子どもアンケートを通して暉琉の夢を知りました」と笑顔を見せ、「同じ夢を持つてくれると、こんなに嬉しいことはない。美容師として、親子として、応援したいです」と、我が子にやさしい眼差しを向けます。

美容師の仕事で、「お客様を輝かせるための縁の下での力持ち」と表現する藤田さん。暉琉くんも、「僕も、みんなが喜ぶ美容師になりたい」と元気に宣言します。「年齢ごとにいろいろな夢を描くでしょうが、それに向かって努力できる青年になってほしい」と話す藤田さん。一方で、「現代は大人の都合で、子どもの可能性を潰してしまうことがあります。私たち大人が良い手本となり、地域全体で子どもを育てていきたいですね」と力強く話してくれました。



写真前方／
 榎野 杏ちゃん、 吉太くん
 (やまなみ保育園)
 写真後方／
 住吉区太鼓指導員
 福谷 善明さん (52歳・住吉)



写真左／
 嶋口 美春ちゃん (遠敷保育園)
 写真右／
 遠敷地区ふるさとづくり推進会会長
 仲野 實さん (72歳・忠野)

「将来を担う子どもたちは、地域の宝です」と言う仲野さん。「この場所です」と誇りを持ってもらえるように、自分たち大人が手本となり、頑張る姿をみせたいですね」とほほえみました。

長年、遠敷の地域づくりに取り組む仲野さん。平成22年から遠敷川で、26年からは会場を若狭の里公園(遠敷二丁目)に移して、『天の川夏まつり』を開催しています。それまでは荒れていたという同公園ですが、「イベントや隣接する博物館のリニューアルをきっかけに、行政や住民による整備が進み、誰もが気軽に訪れられる公園になりました」と振り返ります。

地域の公園でよく遊ぶという嶋口美春ちゃんも、若狭の里公園が大好きな一人です。「大きなドングリが拾えるし、コイやいろんな虫もいる」と目を輝かせます。

ステキな場所みつけた！

ふるさとづくり推進会が企画する、『天の川夏まつり』や『魚つかみ大会』にも毎年参加するなど、家族や地域の人に見守られながら、のびのびと育っています。

「将来を担う子どもたちは、地域の宝です」と言う仲野さん。「この場所です」と誇りを持ってもらえるように、自分たち大人が手本となり、頑張る姿をみせたいですね」とほほえみました。

二人に太鼓を教える指導員の福谷さんは、「祭りは、住民同士が交流する大切な機会でもありません」とその意義を語ります。「お互いのことを知ることで、普段からあいさつを交わすようになるなど、人の輪へとつながります」

杏ちゃんは、福谷さんを「やさしいおっちゃん」と呼び、「太鼓を叩く姿がカッコイイ」と話します。吉太くんも、「教えてもらううちに、太鼓の音が好きになった」とニコリ笑います。

福谷さんは、「住吉の子どもたちはみんな兄弟のようなもの。二人も稽古を通して、すぐに溶け込んでいた」と振り返り、「未来を担う子どもと、支える大人が一緒になって、地域を盛り上げていきたいですね」と意欲をみせました。

子どもの声

地域への愛着・きずな

を生む人とのつながり

家族以外で好きな人

- 1位 ともだち 439票
- 2位 保育園・幼稚園の先生 315票
- 3位 地域の人 93票

普段から園で接する機会の多い「ともだち」や「先生」に続き、「地域の人」が3位に入りました。4位以下には、「いとこ」や「祖母」、「習いごとの先生」「ペット」などが続きました。

家の近所のおばちゃんが大好き



木村 絢音ちゃん (チューリップ保育園)

友だちと一緒に遊ぶのが楽しい



参河 清大くん (宮川保育園) 木下 幸奈ちゃん (宮川保育園)

保育園のみんなと仲良し!

新聞を作るぐらい小浜城址が好き



山下 皓也くん (松永保育園)

エンゼルラインの上からの景色がきれい



一井 雪乃ちゃん (今富らのとり保育園)

家の近くの海で魚と一緒に泳いでる



今筋 壮くん (浜っ子こども園)

小浜の好きな場所

- 1位 公園 310票
- 2位 海 119票
- 3位 温水プール 38票

地域の各「公園」がダントツの人気。2位には小浜らしく「海」が入りました。一方、市民アンケートでは、家族から「子どもたちの遊ぶ場所が少ない(知らない)」との声も聞かれました。

地域の人と多元的に関わり、刺激を受けて育つこと 子どもの成長過程で大切



仁愛大学子ども教育学科 教授
いしかわ あきよし
石川 昭義 さん (57歳・福井市)

保育学を専門に、幼児教育・保育の思想や次世代育成支援策を研究。平成25年度から小浜市公立園保育研究会のアドバイザーを務め、講演・提言を行う。

少子高齢化社会の中での子どもの大切さは誰もが理解するところ
です。子どもの声が騒音問題に発
展するのは、そこに到るまでの関
係づくりやコミュニケーション不
足が原因なのではないでしょうか。
「子ども叱るな来た道だもの」とい
う言葉が示すように、自分には関
係のない「他人ごと」と思うので
はなく、自身の人生と重ね合わせ
て、温かなまなざしで子どもの成
長を見守り、周りが支えることの
大切さを思い起こしてほしいです。

ちゃん、お姉ちゃんといった、多
元的な人間関係の中で刺激を受け
て育つということは、子どもの成
長過程でとても大切なことです。
日本には、地域社会の中で、み
んなで子どもを育てるといった文化
があります。それが薄れつつある
現代、子どもと周囲の人間が交流
する「場」になれるという可能性
を地域の保育施設は持っています。
保育内容だけでなく、畑や花壇
の世話など、地域の人には多様な
関わり方があります。子どもたち
に、そこに誰かの手が関わってい
ることを伝え、気づかせることは、
保育者の大事な役割と言えます。



やまなみ保育園の子どもたちと園の隣に住む玉川さん(写真右)、大森園長(同左)

隠れがちな子どもの声、「もういいよ」と呼びかけよう

家の隣にできた保育園

昭和51年から自宅に隣接する
店舗で貸し鉢業を営んでいる
玉川明男さん(76歳・水取四丁
目)。平成27年4月、家の隣に園
児数160人を超す「やまなみ
保育園」が開園しました。

以来、毎朝、玉川さんが仕事
を始めると、「おっちゃん」と
いう元気な声と共に、園と仕事
場の間にあるフェンス際まで子
どもたちが駆け寄ってきます。
「みんな元気か」とにこやかに呼
びかける玉川さん。「園に通う子
どもたちは、孫のような存在」
と話し、「子どもの声は、日常の
大切な一部。私も家族も元気をも
らっています」とほほ笑みます。

声を掛け合い笑顔が広がる

子どもたちが、園庭でかくれ
んぼを始め、鬼役が「もういいか
い」と声をかけると、それを見て
いた玉川さんが、「もういいよ」
と応えます。「もう、おっちゃん
邪魔せんとつてよ」と子どもたち
が笑い、笑顔の輪が広がります。

地域ニュース

園児と住民が「焼きイモ」で笑顔の交流

10月12日(土)に、国富保育園(栗田)で、同園の
園児40人と国富地区老人クラブ12人による
「焼きイモ交流」が行われました。園児と老人クラブの
皆さんは、5月から地域の畑で、協力してサツマイモを
育ててきました。この日は、収穫したサツマイモを使っ
て園庭で焼きイモを作り、みんなで仲良く食べました。



「子どもがいないと地域から活
気がなくなります」と言う玉川
さん。「大人が優しく見守り、接
することで、元気に声を出し、
のびのびと育ってほしいですね」
同園の大森和良園長(65歳・泊
は、「玉川さんをはじめ、地域で
見守ってくださる人の存在が、子
どもの力につながります」と感謝
を述べ、「園としても、健やかな
子どもたちを育てて、皆さんとの
交流を進め、地域に元気を返した
いです」と思いを新たにしました。

子どもの声に寄り添って

今回の取材で見えてきたのは、
小浜で生き生きと暮らす子ども
たちと、そこに寄り添い、支え
る大人たちの姿でした。

現代社会の中で、子どもの声の
立場は弱く、簡単に隠れてしま
います。しかし、「もういいよ」と
呼びかけると、姿を現し、地域
の未来やすばらしさを私たちに
教えてくれます。大人の一方通行
の要求ではなく、互いに声を掛
け合い、手をつなぎ、進むことで、
地域に豊かな未来が広がります。